

令和7年度第1回庄原市情報教育研修会

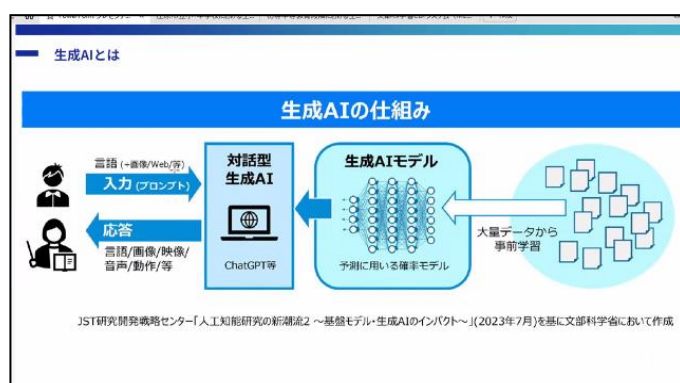
- 日 時：令和7年5月21日（水） 14：30～16：35
- 場 所：各校（オンライン実施）
- 対象者：庄原市内各小・中学校のICT活用推進リーダー20名

目 的

- ・児童生徒の資質・能力及び情報活用能力の育成のための、校務における生成AIや授業におけるMEXCBT（メクビット）の利活用について理解する。
- ・個人情報等の教育データを適切に管理・運用するための、情報セキュリティや情報リテラシーについて理解する。

説明・演習 「生成AI及びMEXCBT（メクビット）の利活用について」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 末田 和也



生成AIとMEXCBTについての説明の後、演習として実際の活用方法について端末を用いて操作した。

【説明・演習の概要】

- 生成AIは近年では、標準使用のブラウザにも組み込まれており、子供たちにとって身近なものとなりつつある。しかし、生成AIには誤った出力があるなど、危険性や特性についてまずは教職員が理解していく必要がある。
- 情報活用能力を育成していくために、情報活用スキル、デジタルシティズンシップの育成の充実が必要である。特に庄原市ではスキルに課題があり、MEXCBTを授業や家庭学習に取り入れることで、考えながら入力する力、速く入力する力を高め、子供の情報活用能力の向上につなげてほしい。

講話・演習 「情報セキュリティ・リテラシーについて」

広島教科用図書販売株式会社ITソリューション部 部長 好本 仁朗

【講話・演習の概要】

- 学校は個人情報の取り扱いが多く、情報漏洩等のセキュリティ事故は大部分がヒューマンエラーであるため、教職員の意識を高くする必要がある。
- 最近ではクラウド上での人為的ミスによる情報漏洩がおきている。IDやパスワード、USBメモリの管理の徹底だけでなく、教職員がクラウドの整理や権限の確認を定期的に行うことで情報管理をしてほしい。
- まずは教職員が理解することが大切であり、理解した上で、児童生徒に様々な場面で指導することが、情報活用能力の充実を図ることにつながる。

クラウドの利用について



事例で学ぶNetモラル動画より

情報セキュリティ・リテラシーについての講話と合わせて、児童生徒向け啓発動画の視聴を行った。

【参加者から】

- ・生成AIとは何か、どのように扱っていけばよいかを教師と児童生徒がともに考えていく必要があると感じた。
- ・MEXCBTは、内容や使用方法等を確認しながら、児童の学力向上に役立てていきたい。
- ・児童が将来情報を活用する上で情報管理をする力がとても大切であり、紹介があった動画は児童生徒にとって分かりやすいものでもあるため、これからも指導に役立てていきたい。
- ・情報リテラシーに関しては、児童生徒だけでなく自分たち教職員も常に危機感をもって情報を取り扱いたい。